

**編集 後記**

6月に入り、北海道を除く各地で梅雨の季節となりました。高温多湿な気候の中、熱中症や食中毒の発生が懸念される時期です。加えて、令和7年6月1日からは熱中症の重篤化を防止するため、労働安全衛生規則の改正が施行されました。しかし熱中症対策は、職場だけでなく、一般家庭、学校、高齢者施設、医療機関、スポーツ施設、公共空間など多様な生活の場でも、公衆衛生関係者にとって重要な課題となっています。従来の啓発活動に加え、それぞれの現場に即した工夫や取り組みが、今後ますます重要になってくると感じています。

さて72巻6号では原著3編、特別報告1編を掲載しています。

第一編は、認知症初期集中支援チームの活用実態を、支援チームの併設有無別に全国調査した論文です。多くの包括支援センターが支援チームを頻繁に活用していない実態を明らかにしています。また著者は活用促進には、ルールや要件の見直し、関係者間の継続的な協議体制の構築が重要であると述べており、今後の地域における認知症支援体制の強化に向けた貴重な基礎資料となると考えています。

第二編は、保健師の事業実装力に関連する要因をキャリアレベル別に分析した論文です。新任期では省察力や専門性の向上、役職無では研究活用力や実践の重要性の認識、役職有では経験に基づく力が事業実装力向上に有用と報告し、今後の研修設計やキャリア支援に役立つと考えています。

第三編は、健康無関心層への効果的なアプローチに向け、健康関心度尺度の短縮版作成に関する論文です。因子分析により、6項目版と4項目版を開発し、いずれも12項目版と同程度の信頼性と妥当性が確認されたと報告しており、今後、簡便に健康関心度を測定する手法として有用性があると考えています。

第四編は、屋内ラドン対策の現状と課題を、公衆衛生や建築物衛生の観点から整理した論文です。海外では規制や基準の策定が進む中、日本では情報提供にとどまっている現状があり、今後、地下空間での長時間滞在者への注意喚起やモニタリングの普及に役立つ提言であると考えています。

これから暑さが厳しくなる季節です。皆さまが健康に留意されながら、引き続きそれぞれの現場でご活躍されることを願っております。  
(都竹茂樹)

**次号予告 (第72巻・第7号)****原 著**

地域高齢者における主観的な嚥下機能と口腔関連 QOL に関する研究……………石上真麗, 他

**公衆衛生活動報告**

大学と中学校が連携した学校保健活動: デジタル機器の使用と生活習慣についての調査と健康教育……………桑原祐樹, 他

**資 料**

母親の社会的孤立と児童虐待リスクに関する横断研究: 母親のソーシャルサポートと孤独感から……………張 詩琪, 他  
各都道府県のがん相談支援センター相談員研修会を企画・運営する者の困難と求める支援: 国立がん研究センターによる支援の検討

……………高橋朋子, 他  
医療ひっ迫回避へ向けての提言: COVID-19 第8波における兵庫県内地域別対応の比較を通して……………濱田昌範, 他  
介護保険制度の住宅改修における「住宅改修が必要な理由書」を用いた記述的研究: 要介護度と理由書作成者の職種による違いの検討  
……………土屋瑠見子, 他